



<平成 25 年度>

地域振興部の取り組み実績

地域振興総務課	産業振興課
生涯学習課	農政課
文化振興課	

■ 基本方針 ■

地域振興部の所管している、商業・工業・農業などの産業振興、文化・生涯学習など市民活動の支援、都市交流や観光などの賑わいづくりなど、多岐に亘る内容を効果的に推進し、「誇れるまち」づくりに寄与します。

平成 25 年度は、健康医療都市コンソーシアムの柱の事業として、新たな医療関連産業の創出を目的に、枚方の地域資源である医療機関・大学とものづくり事業者等とのマッチングの充実を図るとともに、都市農業の後継者を育成するための（仮称）枚方版農業学校の開設に向けた取り組みなど、地域産業の振興を図るための仕組みづくりを着実に推進します。

また、教育文化都市の実現に向け、文化芸術の振興を図る条例の制定や、政策企画部と連携し、新たな拠点となる総合文化施設の整備計画を策定するなど、整備に向けた取り組みを進めます。

さらに、関係団体や市民と連携して事業の発信効果を高め、まちの魅力アップを図ります。

実績

- ・医療・産業連携の更なる推進・拡大に向け、連携の枠組みに新たに福祉分野の参画も呼びかけた情報交換会を開催するとともに、市内の医療環境やものづくり企業等の社会資源を活かし、産業振興の観点から都市ブランド「健康・医療都市」確立に向け支援の構築を進めた。
- ・若い世代の新規就農希望者を増やし、農業への定着を支援するため、平成 25 年 11 月 1 日に「農業経営基盤強化の促進に関する基本的な構想」を改定し、貸借対象となる農地の下限面積要件を緩和、

併せて、市が貸し手から委任を受けて利用権を設定する農地利用集積円滑化事業に取り組むため、規程を制定した。また、国の青年就農給付金（経営開始型）を活用できるよう、農水省及び大阪府が推進している「人・農地プラン（地域農業マスタープラン）」を策定し、大阪府制度の「準農家」の要件を満たしている新規就農希望者、都市農業ひらかた道場の研修生等が新規に就農することが可能な条件整備を行った。

- ・枚方市文化芸術振興条例を平成 26 年 3 月に制定。また、政策企画部と合同で総合文化施設検討チームを立ち上げて検討を重ね、総合文化施設整備計画案を策定した。

I 重点施策・事業

◆新産業創出をめざした産業・医療連携の仕組みの構築

新たな医療産業の創出や医療関連ビジネスの開拓をめざし、経済団体等と連携しながら産学連携強化や、平成 24 年度にスタートさせた情報交換会等により、産業と医療との連携の仕組みを構築します。



実績

- ・医療・福祉現場での課題に基づき、「医療機関・福祉施設における転倒転落事故防止対策事例と支援機器の可能性について」をテーマとして、関西文化学術研究都市推進機構ヘルスケア事業推進室の協力を得て、アンケート・取材を行い平成 26 年 2 月に第 2 回目の連携情報交換会を開催。講演の後、企業・医療機関と新たに加わった福祉施設の関係者等 35 名による活発な意見交換を行った。

◆新規就農に向けた（仮称）枚方版農業学校の開設準備

農業の後継者づくりに向け、新規就農研修事業『（仮称）枚方版農業学校』の平成 26 年度実施をめざします。前年度作成の教育計画を踏まえ、教育カリキュラムを策定するなど、研修生受け入れに向けた取り組みを進めます。

実績

- ・「ひらかた農業師範の会」に教育カリキュラム策定支援業務を委託し、平成 26 年 3 月 29 日に「都市農業ひらかた道場」の開講式を開催、4 月 1 日から実施する準備が完了した。農業の後継者育成に向けて今後も取り組んでいく。

◆文化芸術の振興に関する条例の制定

音楽や、演劇、美術創作など、プロ・アマを問わない市民の芸術文化活動が盛んな本市の特色を生かしたまちづくりを推進するため、文化芸術の振興に関する基本的な考え方を示した条例を制定します。

実績

- ・市民の活発な文化芸術活動をまちづくりに生かすため、前年度に引き続き、公募市民や専門家などで構成する審議会にて条例制定に向けた検討を進めてきた。その後、審議会から答申を受け、パブリックコメントの実施、議会での審議を経て「枚方市文化芸術振興条例」を制定した。

◆名誉市民・森繁久彌氏生誕 100 年記念事業の実施

本市の名誉市民であり日本を代表するエンターテイナーである森繁久彌氏の生誕 100 年を記念し、森繁氏の故郷である枚方だからこそできる話題性のあるオンリーワンの事業として、市民とともに創る舞台公演等を実施し、文化の担い手の育成と郷土意識の醸成を図りながら「教育文化都市」枚方を全国に発信します。

実績

- ・平成 25 年 11 月～12 月にかけて名誉市民・森繁久彌生誕 100 年記念事業として映画会、展示会、トークショー、朗読と音楽による記念公演を市民参加により開催し、枚方を全国に発信した。（入場者数：4,337 名、新聞・情報誌掲載：21 件）
- ・記念事業に向け、舞台制作講座及び朗読ワークショップを開催し、文化芸術を担う人材育成に取り組んだ。（受講者数：舞台 17 名、朗読 15 名）

◆大規模小売店舗立地法に関する事務の円滑な執行

大阪府から事務移譲を受けた「大規模小売店舗立地法に係る届出受理等事務」について、コンサルタント業者に一部事務を委託するとともに、庁内関係部署及び関係機関との連携により、適正な事務処理に努めます。

実績

- ・平成 25 年度は新設届 1 件、変更届・承継届各 3 件を受理。関係機関等とも連携の上、法令に基づき適正な事務処理を行った。また、平成 24 年度中に受理した新設届 2 件、変更届 1 件について、コンサルタント業者による分析と庁内委員会等での検討を経て平成 25 年 7 月に「大規模小売店舗立地審議会」を開催。周辺地域の生活環境の保持についての事項についての審議・答申を得た上で、適正な事務処理を行った。

Ⅱ 行政改革・業務改善

<行政改革実施プラン（前期）の改革課題>

改革課題	取り組み内容・目標
28. 生涯学習施設と図書館の効率的な管理運営	生涯学習市民センターと図書館の管理運営について、各施設の役割を踏まえ、サービス向上と効率性の観点から検討を行い、今後の方針を策定。
実績 <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習施設と図書館の複合施設については、市民サービス向上と効率的な管理運営を行うために、指定管理者制度導入に向けて準備を進めることとした。 	

改革課題	取り組み内容・目標
29. 外郭団体等における中期的な「経営プラン」の策定	文化国際財団、枚方文化観光協会においてそれぞれ中期的経営プランの策定を要請。
実績 <ul style="list-style-type: none"> 両団体に対し、中期経営プランの策定に取り組むよう要請するとともに、今後の文化観光協会のあり方について、協議・検討を進めた。 	

改革課題	取り組み内容・目標
48. 新たな産業振興策の推進と雇用創出の仕組みづくり	新たな医療産業の創出や医療関連ビジネスの開拓を図るとともに、経済団体や大学などと連携し、市内企業と学生のマッチングを促進することで雇用創出と人材育成につなげる仕組みを構築。
実績 <ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年度から開催した医療・産業情報交換会について、新たに福祉機関も加え、より実践的な連携を推し進めた。また、経済団体等と連携し、学生の商店街へのインターンシップや市内企業へのバスツアーなどに取り組んだ。 	

<事務事業総点検に係る対応>

事務事業	取り組み内容・目標
「マルシェ・ひらかた」開催事業	産業間連携のあり方も含め、より効果的、効率的な開催方法を検討。
実績 <ul style="list-style-type: none"> 企画担当者会議を設置して「マルシェ・ひらかた」の今後のあり方を検討し、その検討結果を受けて平成 26 年度から、より魅力的で発信力の高い産業 PR イベントとして発展させ、開催することとした。産業間連携に係る支援についても、別途取り組んでいく。 	

事務事業	取り組み内容・目標
新産業創出支援事業	中小企業活動支援・地域貢献型ビジネス支援の 2 事業を統合再編した本事業により、事業者等が取り組む新規性に優れた事業や地域資源を活用した事業を継続的に支援する。
実績 <ul style="list-style-type: none"> 新規性と継続性に優れたニュービジネスの創出に向けた支援制度へ再編し、審査会による選定後、3 事業者に対して支援を行った。 	

事務事業	取り組み内容・目標
エコ農産物普及拡大事業負担金交付	消費者へのエコ農産物の普及拡大及びエコ農産物申請農業者の増加に向けた取り組みの推進。
実績 <ul style="list-style-type: none"> 普及活動として、新しいほ場看板やエコバックの作成、イベントにおいて宣伝、エコバックの無料配布を行うことで、より広く市民へ「大阪エコ農産物」の知名度向上が図れるよう啓発活動に取り組んだ。 	

<業務改善のテーマ・目標>

テーマ	取り組み内容・目標
満足度の高い窓口対応	生涯学習市民センターの業務研修を定期的実施。運営マニュアル等の作成（改訂）を適宜行い、公平良質なサービスを提供。
実績 <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回、各生涯学習市民センターから1名ずつ集まり、センターの運営業務について共有を図った。 接遇研修やホームページ研修を実施。各生涯学習市民センターのホームページを統一化するなどのリニューアルを行い、市民サービスの向上を図った。 	

テーマ	取り組み内容・目標
効率的な会議運営	地域振興部は対外的な調整や部内連携にむけた会議が多いため、効率的な会議運営に努める。
実績 <p>重要な事項については、適宜、課内会議を開催し共有化を図るなどにより、個別会議の短縮など効率的な運営に努めた。</p>	

Ⅲ 予算編成・執行

- ◆厳しい財政状況の中で、継続事業に加え、(仮称)枚方版農業学校開設の取り組みや森繁久彌生誕100年記念事業などの新たな事業において国の補助金獲得に努めます。

実績

- ・国の「新規就農・経営継承総合支援事業」を活用することで、平成24年度に策定した教育計画に引き続き、教育カリキュラム策定支援として、補助金交付を確定することができた
- ・森繁久彌生誕100年記念事業について文化庁の地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業の採択を受けた。(採択額626万6000円)

- ◆国の動向を注視し、各種経済対策に迅速に対応した施策を展開するとともに、各種事業については職員の意識向上と部内連携の強化により、効果的効率的な執行に努め、最大限の成果をめざします。

実績

- ・国や大阪府の動向を常に注視するとともに、国等の経済対策などについて、関係機関等を含め情報提供や支援を行うなどの取り組みを行い、効果的効率的な執行に努めた。

Ⅳ 組織運営・人材育成

- ◆地域振興部の事業は、関係団体や市民との連携協力が不可欠であるため、コーディネート能力を実践の中で高めるとともに、産業や文化等の新たな政策を構築できる企画力ある職員の育成をめざします。

実績

- ・国や府などの研修会等への積極的な参加や関係者との交流などにより、スキルアップに努めた。
- ・今年度は森繁久彌生誕100年記念事業を通じて、外郭団体や市民団体と連携する等、事業構築においてコーディネート能力の育成を図った。また、文化芸術振興条例や総合文化施設の整備計画の検討過程において、政策構築能力の育成を図った。

- ◆地域振興部は、毎年イベントの開催が多く、また、自然災害により農地や里山などに多くの被害が出た場合には、その対応に追われます。緊急的、臨時的に多くの人員を要する機会が多いため、部内の応援体制を強化します。

実績

- ・災害発生時における対応・被害調査等に係る部内応援体制を編成し、平成 25 年 9 月の台風被害が生じた際は、本応援体制に基づき対応を行った。
- ・さくらまつり、第 20 回マルシェ・ひらかた、枚方まつり、森繁久彌生誕 100 年記念事業等において、部内応援体制により円滑に事業が執行できた。

V 広報・情報発信

◆情報発信リーダーを中心に、様々なメディアを活用し各種事業の効果的な情報発信に取り組めます。平成 25 年度は、特に森繁久彌生誕 100 年記念事業を全国発信することで、文化のまち枚方を内外に PR するとともに、市民の意見を取り入れながら文化芸術の振興に関する条例を策定します。また、産業や文化、生涯学習などの分野での各種団体や市民の取り組みについても発信を支援し、まちの魅力向上に努めます。

実績

- ・各メディアを活用し、産業や文化、生涯学習などの分野での取り組みについて効果的な情報発信に取り組んだ。
特に、森繁久彌生誕 100 年記念事業については、積極的に情報発信に努めた結果、事業の事前告知記事が 4 大紙すべてとスポーツ紙、京阪電鉄の情報紙「Kプレス」、地元情報紙に掲載されるなど、大きな反響を呼んだ。また、第 20 回マルシェ・ひらかたについて、七夕を共通項として交野市等とともに作成したチラシを京阪本線各駅で配布するとともに、「Kプレス」にも掲載され、広く PR を行った。さらに、「産業振興キャラクターひこぼしくん」を民間事業者が利用できるよう、着ぐるみの貸出制度を整備し、普及啓発に取り組むなど、多様な方法により情報発信を行った。